

児童相談所と児童養護施設の労働問題:子ども・職員双方の人権保障のために

日本福祉大学 堀場純矢
junya@n-fukushi.ac.jp

1. はじめに

- ・自己紹介 … 児童養護施設や児童自立支援施設の現場で直面した事件(経営側の不祥事、施設内虐待、労働争議、殺人事件)と改善運動(記事等) ⇒ 憤りと反骨心から労働問題&労働組合研究へ
- ・千葉&司法との関係 … 恩寵園、千葉県の研修講師、放送大学客員教員、同僚の不当解雇裁判、最高裁の役職
- ・争議や裁判に関するおススメの映画・ドラマ … 映画「沈まぬ太陽」、ドラマ「白い巨塔」(山崎豊子原作)

2. 児童相談所と児童養護施設の労働問題

日本のソーシャルワークと研究の悲劇は近年「労働」をどこかに置き忘れてきたこと(秋元 2019)

(1) 児童相談所

- ・児童相談所(以下、児相)や児童養護施設・乳児院などの社会的養護 … 子どもの生存権保障の最後の砦
- ・児童相談所(公務員)バッシングの問題点 … 虐待死事件が起きる度に一時的な児相叩きの繰り返し
↓
労働者と家族が抱えている問題の共通性・連続性を捉え、自己責任論や分断を乗り越える必要性 & 制度の脆弱さや職員不足の中で対応しきれず、命にかかわる状態でしか子どもを保護できないことが問題(朝日記事)
- ・一時保護所 … 保護された子どもの不安や見通しのなさ、制限の多さ、環境整備の不十分さ(4人部屋が前提で設計)、夜間の緊急対応や制度改革の中で職員に求められることが増加、職員同士の養育方針が定まりにくい ⇒ 高い専門性が求められる & 公務員の人事制度の問題も
- ・行政職は一軍で福祉職は二軍か? … 後者こそ公務員が誇りをもって担い、重視されるべき仕事ではないか

(2) 児童養護施設

- ・児童養護施設は第二次世界大戦後に戦争孤児を篤志家・宗教家が保護
⇒ 同族経営が多いことや措置費・職員配置基準の低さ + 聖職&労働として捉えることが否定され、労働組合(以下、労組)が忌避されてきた … 住み込み制や漸続勤務による自己犠牲的な働き方 & 労働問題研究が停滞
- ・小規模化が進む中で一人勤務や宿直、長時間労働が増えて職員が孤立・疲弊し、職員の確保・育成も困難に
⇒ この状況を改善するには労組が必要だが、社会的養護の推定組織率は2.4%と顕著に低い。児相は組織率が高い労組(自治労、自治労連)に加入しているが、公務員は団体行動権(争議権)がない。
- ・拙著『児童養護施設の労働問題:子ども・職員双方の人権保障のために』(ミネルヴァ書房, 2025 年)

詳細は記事及び『労働の科学』80 巻 2 号を参照 … 拙著を受付で販売(売り上げの一部を飯島さんに寄付)

- ・仕事の特性や労働環境の厳しさ(変則勤務、宿直、有休の少なさなど)が影響して、勤続年数が短く(5年以下が46%)、心身のストレスも深刻 … 「どこも悪いところがなく、健康である」が9%で、精神的ストレスが「ある」も86%

夜勤(宿直)の心身への影響

- … 循環器疾患・高血圧・糖尿病の罹患率が高くなり、私生活上の犠牲も大きく(広瀬 2009)、「生理時計」のリズムが崩れて過労状態になり、疲れや眠気が残りやすい(近藤 2010)。「うつ」の原因(天笠 2009)にもなる。

- ・やりがいを感じている職員の多さ(95%) … 「やりがいの搾取」にもつながる

- ・辞めたいと思ったことが「ある」が61% … 理由は職場の人間関係や労働条件・労働環境、施設の子どもの関係が多い ⇒ 支えになったものや長く続けられる理由も同じ

- ・労組の有無別の主な相違点 … 詳細は『労働の科学』80 巻 2 号を参照



「労組有」… 学歴、雇用形態、勤務形態、賞与、昇給、研修参加率、上司との関係、働くことになった経緯、苦情・要望を聞いている割合、労組や社会運動に対する職員の意識など。

「労組無」… 「労組有」と逆の傾向があり、労組の認知度が低く、労組へのマイナスのイメージを持っていた。

- ・戦後の児童養護施設における労働争議 (4 勝 2 敗) … いずれも労組に加入して組織的な運動を展開

- ・児童養護施設における労働争議と労働組合の役割:インタビュー調査から(2022 年実施、論文執筆中)

大変だったこと… 司法・行政が労働者の立場に立っていない、組合員が1人で争議をすることの困難さなど

3. 裁判・争議の意義と課題

- ・権利は闘って勝ち取るもの … リスクはあるが恐れてばかりいては何も変わらない(飯島氏の勇気)

資力に乏しい人々が国・自治体を相手に闘っており、戦力の差は圧倒的で対等な争いとはいえない(井上 2021)
& 恩恵的・劣等処遇意識の強い日本で裁判に訴えることは当事者にとっては大変な勇気が必要(井上 2017)

- ・個別の問題の闘いを通して普遍的な問題を問うことで、はじめて社会を守ることができる(今野 2019)

- ・子ども・職員双方の人権保障と労組を軸にした社会運動の展開

… 職員が自らの人権すら守られていない状態に置かれていては、子どもの人権を守ることはできない

- ・研修の不十分さ(いきなり現場で即戦力扱い)&養成課程の課題(特に労働法や労働組合に関する知識が希薄)

- ・研究者の課題 … 判決・判例は原告や弁護士、運動家等によって勝ち取られたもので、血と汗の結晶である判決を判決文だけを読んで解説する「人のふんどしで相撲をとる」ような研究は疑問(井上 2021)

文献：秋元樹(2019)『労働ソーシャルワーク』旬報社、浅井春夫(1991)『児童養護論争』肘い出版、天笠崇(2009)『成果主義とメンタルヘルス』『公衆衛生』73(1)、井上英夫(2017)『社会保障裁判で何をどうたてたか』井上英夫ほか編『社会保障レビュー』高菅出版、井上英夫(2021)『社会保障裁判研究と創造法学』矢嶋里絵ほか編『社会保障裁判研究』ネルヴァ書房、近藤雄二(2010)『予防と回復できる仕事の疲れ』細川汀編『健康で安全に働くための基礎』文理閣、今野晴貴(2019)『新しい労働運動が、社会を守り、社会を変える』『闘わなければ社会は壊れる』岩波書店、廣瀬俊雄(2009)『夜勤と健康』『公衆衛生』73(9)

堀場純矢 著

MINERVA社会福祉叢書 71

児童養護施設の労働問題

子ども・職員双方の人権保障のために

ISBN978-4-623-09857-6 C3336 A5判上製カバー336頁 定価7150円(本体6500円+税) 2025年2月刊

全国各地の児童養護施設へのアンケート・インタビュー調査から、施設職員の労働条件・労働環境を健康状態・ストレスと関連づけて分析。その上で、労働組合など労働環境改善のための取り組みがもたらす効果の検証を踏まえた政策課題を提示する。また、労働環境改善のための取り組みが子どもの人権保障につながることを実証するとともに、同僚・上司等の職員や子どもとの関係が及ぼす影響も考察。施設職員の労働問題を解決・緩和するためには、個々の施設の自助努力だけではなく、労働組合への組織化と国・自治体に対する社会運動が必要なることを浮き彫りにした一冊。

児童養護施設の労働問題



ミネルヴァ書房



- ◎ 全国各地の児童養護施設へのアンケート・インタビュー調査を基に分析。
- ◎ 労働環境改善のための適切な取り組みが子どもの権利擁護につながる事を実証。
- ◎ 同僚・上司等の職員や子どもとの関係が及ぼす影響を考察。



はじめに

序章 施設職員を「労働者」として見る

- 1 労働問題研究の背景と目的
- 2 労働問題研究の視点と枠組み
- 3 労働問題研究の対象と方法
- 4 本研究の課題と構成

第I部 先行研究と労働問題の歴史

第1章 施設職員に関する先行研究の分析

- 1 社会福祉労働に関する先行研究
- 2 労働条件・労働環境
- 3 健康状態とストレス
- 4 支えになったものと仕事のやりがい
- 5 小規模化の影響
- 6 研修体制
- 7 働き続けられる環境づくり
- 8 労働組合の役割
- 9 国・自治体の役割
- 10 先行研究の意義と課題

第2章 児童養護施設における労働問題の歴史

——1945～2024年

- 1 戦争孤児の保護と児童養護施設の設立——1945～1953年
- 2 労働運動の高揚と制度の改善——1954～1972年
- 3 労働運動の停滞と労働時間短縮問題——1973～1994年
- 4 社会福祉の市場化と施設内虐待・労働争議の続発——1995～2010年
- 5 小規模化・地域分散化の推進——2011～2019年
- 6 コロナ禍と地域分散化の影響——2020～2024年
- 7 歴史区分ごとの労働問題の共通性と特徴

第II部 施設職員の労働条件

第3章 基本属性・施設の形態・就業の条件・職種等

- 1 基本属性
- 2 施設の形態・就業の条件・職種等
- 3 基本属性等からみた職員の状況と意識

第4章 給与体系

- 1 年 収
- 2 賞与の有無と支給月数
- 3 昇給の有無と額
- 4 職員の賃金

第5章 労働条件

- 1 有給休暇の有無と取得日数
- 2 過当たりの実労働時間
- 3 月当たりの超過勤務手当の支給時間数
- 4 宿直の回数
- 5 職員の労働条件

第III部 施設職員の健康状態と人間関係

第6章 健康状態とストレス

- 1 自覚症状
- 2 精神的ストレス
- 3 仕事上の不安・悩みと相談相手
- 4 健康状態・ストレスと人間関係

第7章 退職を考えた時に支えになった要因

- 1 仕事を辞めたいと思った理由と支えになったもの
- 2 長く続けられている理由
- 3 辞めたいと思った時に何が支えとなったか

第8章 施設職員として働くことになった経緯と仕事のやりがい

- 1 施設職員として働くことになった経緯
- 2 仕事のやりがい
- 3 労働環境の保障と積極的な情報発信

第9章 子どもと家族からの行政機関や施設に対する苦情や要望

- 1 子どもと家族からの苦情や要望
- 2 苦情や要望の内容
- 3 苦情や要望の捉え方と対応

第IV部 施設職員の労働問題を規定する要因

第10章 小規模化の影響

- 1 アンケート調査からみた小規模化の影響
- 2 インタビュー調査からみた小規模化後の変化と課題
- 3 小規模化の影響と課題

第11章 研修体制

- 1 研修の内容・回数
- 2 役立った研修の内容
- 3 今後望む研修内容
- 4 研修の実態と課題

第12章 働き続けられる環境づくり

- 1 職員が安心して働き続けるために必要なこと——アンケート調査から
- 2 施設で安心して働き続けるための配慮——インタビュー調査から
- 3 職員集団づくりの方法——インタビュー調査から
- 4 職員が安心して働き続けられるために

第13章 労働組合の役割

- 1 労働組合の有無と必要性——アンケート調査から
- 2 労働組合の必要性を「感じる」「感じない」理由
- 3 労働組合の必要性と意義——インタビュー調査から
- 4 総合考察
- 5 労働組合の役割と課題

第14章 国・自治体の役割

- 1 アンケート調査からみた本調査および国・自治体に対する要望・意見
- 2 インタビュー調査からみた国・自治体への要望・意見
- 3 国・自治体の役割と課題

終章 子ども・職員双方の人権が保障される環境づくり

- 施設における労働問題と対策
- 1 児童養護施設における労働問題
- 2 子ども・職員双方の人権保障に向けた課題
- 3 労働問題研究の意義と今後の課題

おわりに
参考文献／巻末資料／索引

【著者紹介】堀場純矢 (ほりば・じゅんや)

1975年、愛知県生まれ。
2012年、金沢大学大学院人間社会環境研究科博士後期課程修了。博士(学術)、社会福祉士。
全国児童養護問題研究会編集部長、「社会的養護研究」編集委員長。児童養護施設の児童指導員、中京女子大学(現・至学館大学)専任講師などを経て、現在、日本福祉大学社会福祉学部教授、放送大学客員教授。

主 著：『階層性からみた現代日本の児童養護問題』(明石書店、2013年)、『日本の児童養護と養育研半世紀の歩み——未来の夢語れば』(共編著、福村出版、2017年)、『(施設養護から里親制度へ)の対立軸を超えて——「新しい社会的養育ビジョン」とこれからの社会的養護を展望する』(共著、明石書店、2018年)、『「そだちあい」のための社会的養護』(共著、ミネルヴァ書房、2022年)。

主論文：「児童養護施設職員のストレスと健康状態——20施設のアンケート調査から」「医療福祉政策研究」4(1)、2021年、「児童養護施設職員が働き続けられる環境づくり——インタビュー調査から」「総合社会福祉研究」50、2021年、「児童養護施設職員の労働問題と労働組合の役割——労働組合の有無別のアンケート調査から」「大原社会問題研究所雑誌」775、2023年。

*本チラシの情報は刊行時のものです